

(科目コード : 8108820085MM)

【改訂】第18版(2016-03-19)

【科目】知的財産権概論

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 選択 【学期・単位数】 前期・2単位

【対象学科・専攻】 機械 5年

【担当教員】 中村 希望,黒瀬 雅詞

【授業目標】

- 知的財産権の種類を理解できること
- 特許権の申請から取得までの流れを理解できること
- 知的財産権を特許検索サイトJ-Plat-Patを用いて検索できること
- 企業入社後に技術者として必要な知的財産権に関する知識が理解できること

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は22.5時間である。本科目は学修単位科目である。

- (1) 各知的財産権の概要
- (2) 特許調査の方法・パテントマップの作成方法
- (3) 明細書の書き方及び中間処理並びに登録後の権利行使について
- (4) 職務発明等企業における知財の役割について

時間外において、パテントコンテスト出願様式演習およびプレゼンテーションの課題を課す。

【教科書・教材・参考書等】

参考書：標準テキスト「総合編」：特許庁：特許庁

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

授業は機械工学科3F設計支援室で行う。教材はモニタに提示しながら行う。また、数回の授業でパソコン端末を利用する。

授業では1対1あるいはグループ毎にディベート型の討論会を実施する予定である。他者のディベート時には、オーディエンスとして討論会に参加する形式や他の端末を利用して企画を作成したりする。

提案品は3Dプリンタ等で試作する。

授業以外に11.25時間以上の学習時間を行った履歴を求める。

【メッセージ】

技術者として社会に出た際、即戦力となるよう、具体的な講義を盛り込んだ。また、学生諸君の研究の一助となるように特許情報検索の方法を扱う。是非とも特許制度を身近に感じ、今後の糧として欲しい。

パテントコンテストへの応募を目指し、専攻科や大学、就職してから学ぶ、明細書の書き方につなげて欲しい。

【URLアドレス】

弁理士関係

連絡先：e-mail:kurose@mech.gunma-ct.ac.jp

【事前に行う準備学習】

4年 設計製図

3Dプリンタ使用方法

【備考】

本授業は学修単位科目として実施する。教科書は図書館等にあるテキストやプリントを用いる。そのため、正規授業時間外学習として、発明協会主催のパテントコンテストへの応募や、群嶺テクノ懇話会への提案など、知的財産権の活用や地域社会との連携も必要である。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：30%、期末試験：30%、レポート：40%、授業外での学習内容としてレポート点を評価する

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	知的財産法の役割、制度が存在する意味を知り、知的財産の重要性を認識できる	20 %	レポート、中間・期末テストにより評価する
2	知的財産法の各法体系を知り、その制度の概要を理解できる	20 %	レポート、中間・期末テストにより評価する
3	特許出願から登録までの流れとその対応の方法を理解できる	20 %	レポート、中間・期末テストにより評価する
4	明細書または企画書の書き方の流れを理解できる	30 %	レポートにより評価する
5	提案した内容を知的財産権の視点に基づきプレゼンテーションすることができる	10 %	レポートおよび相互評価を行う

【本校の学習・教育目標】

(D-3) 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる能力を身に付ける

(D-4) 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる

【JABEE評価】

(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解

(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件)

工学(複合融合・新領域)分野の分野別基準

【授業計画】（知的財産権概論）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	ガイダンス 知的財産とは？	ラボノートの意義を解説し、ラボノートの付け方、 使い方を学修する。 知的財産法の全体像を説明し、同時に各法の目的と 役割について発明品等の現物を用いながら説明する。 知的財産権の種類について、ヒット商品を例示しなが ら説明するとともに、法目的を解説する。	レポート課題	前年度の卒業研 究について、特 許検索を行い、 先行研究や類似 の内容を調べる
第2回	特許要件（1）	"特許出願から登録までの手続きの流れを説明する。 発明とは何か、産業上の利用可能性とは何かについて 説明する。"	小テスト	
第3回	特許要件（2）	知的財産権の要件となる、新規性・進歩性とは何か、 新規性喪失の例外について説明する。	レポート課題	自分の卒業研究 の新規性、進歩 性を調べる。
第4回	特許要件（3）	知的財産権の要件となる、先願主義・公序良俗・記載 要件等について説明する。	小テスト	
第5回	企業における特許の役割	実施権、職務発明、共同出願、侵害時の対応等、就職 後に遭遇し得る問題に関する知識を得る。	レポート課題	自分の卒業研究 に関連する企業 を調べ、産業上 の位置づけや背 景、あるいは教 育上の意義をま とめる。
第6回	意匠・商標	意匠権・商標権の役割、登録要件等を簡単に説明する 。	小テスト	
第7回	特許検索方法	ブレンストーミング及び特許検索方法のデモンスト レーションを説明を加えながら実習する。	レポート課題	ブレンストー ミングの内容を マインドマップ にまとめる
第8回	中間試験			
第9回	発明の把握 （ディベート形式）	卒研等のグループ毎に分かれて学生同志によるブレン ストーミングを行う。提案テーマから、パテントコン テストに応募できそうなものを選定していく。	レポート課題	産業上、新規性 があると考えら れるアイデアを ブレンストー ミングで列挙 する
第10回	特許検索・分析 （ディベート形式）	企画書作成のため、個々のテーマについて各自で特許 検索する。	レポート課題	検索結果を基に ポンチ絵を作成 し、3D-CADで表 現する
第11回	発明の展開 （ディベート形式）	従来例と比較し、同一か、新しい要素が加わったもの かを検討し、パテントコンテストに応募できるか内容 を絞り込む。	3D造形	CADで作製した 試作品を3D造形 したり、あるい は、試作・試行 する
第12回	企画書作成	絞り込んだテーマ内容に関し、問題点を抽出し、解決 策を考えるとともに、発明を展開させて、企画書を作 成する。	レポート課題	試作品を基に企 画書を作成する
第13回	企画書作成	完成させた企画案を討論する。	レポート課題	先行研究や先行 特許と比較する
第14回	著作権法の概要（1）	著作権法の概要を説明する。	ラボノート	自身の著作物の 評価を行い、参 考文献リストを まとめ、参考に した箇所を明示 する
第15回	プレゼンテーション	作成した明細書をパワーポイントと動画を用いて1分 間ビデオにまとめて報告する。	パワーポイント 資料、動画ファ イル、提案書	これまでの調査 、学修内容をま とめる